

★JAXA・やまぐち宇宙教育推進事業★

★活動レポート★

山口県教育庁
社会教育・文化財課
2019年06月22日

☆新たな時代とともに、「宇宙の学校」スタート！☆

6月22日（土）山口県セミナーパークにて、「第1回 大人版宇宙の学校」が開催されました。これは、3年前に山口県とJAXA宇宙教育センターが交わした覚書により始まった「JAXA・やまぐち宇宙教育推進事業」の一環で、大人を対象とした科学教室です。参加者は、小中教員・公民館関係者・科学教室実践者・主婦など22名が集まりました。講師には、「子ども・宇宙・未来の会（通称：KU-MA）」の副会長である稲葉 茂氏を迎え、和やかな雰囲気の中、宇宙の学校に関する講義や教材演習を行いました。

宇宙と言えば、「地球外の空間」と考えてしまいがちですが、「地球が宇宙の一部であると考えれば、我々の身近で起きている全てのことが『宇宙』であり、身近な科学を学ぶことは『宇宙を学ぶこと』である」という視点に立って、様々な実験を体験していきました。

☆体験する！理解する！つながる！やる気になる！☆

今回の実験は、主に4つを実施しました（①飛び種子、②手作り望遠鏡、③スポイトロケット、④熱気球）。どれもKU-MAが全国の「宇宙の学校」で実施されている教材で、体験を通して科学について理解する要素が盛りだくさんでした。

当日は、NHK山口放送局さんも取材に来られ、夕方の情報番組でも取り上げられました。映像からは、参加者の皆さんが童心にかえったように、夢中になって活動している様子が印象的でした。

今回の参加者とは、家族向けに開催される「宇宙の学校」（7・9・12月の全3回）のボランティアスタッフとして半年間一緒に活動していきます。自分たちが体験した宇宙の魅力を、「未来の世界から預かっている子どもたち」に対して、しっかりと伝えていきたいと思えます。



☆参加者の感想より☆

- 純粋に面白かった。その上で、教材からどんなことを学ばせるのかという視点が、たいへん参考になった。教育の現場で必要なことだと感じた。
- 教材自体はシンプルなものでも、その先につながっているものはたいへん奥が深いことが、よく理解できた。
- 実際に教材を使って、皆と協同してゆったりコミュニケーションをとったりでき、探求心がわいてくる内容の講座になっていた。
- 自分なりの工夫をしたいと夢中になり、時間がもっともっと欲しかったと感じる内容だった。
- 身近なものが宇宙につながっているという視点が今までなかったので、なるほどと感動した。参加者同士も和やかに交流できて良かった。演習では、子どもにかえったように楽しめた。
- 「宇宙の学校」の対象となるお子さんをお持ちの方がこの講座を受けられると、日頃からの関わり方の参考になるだろうと思うのですが、この世代の親御さんは、育児や仕事で参加しにくいのでは…と思う。もっと参加しやすい環境があれば…と感じた。

